

"Let's make a difference!" (「変革にむけて」)

世界のこどもネット代表理事

吉田 里江

(国際交流基金日米センターNPOフェロー)

米国では、現在約750万人もの人々が、非営利セクターで働いています。

現在、私がフェローとして研修しているNPOは、EDC(教育発達センター)といって、約600人が働く教育シンクタンクです。約半数が、博士号をもっています。プロジェクトベースの運営でスタッフの流動性が激しいのも特徴でしょうか。資金調達は、1997年の報告書によれば、財源の64.7%が連邦政府からの補助金、財団からが14.25%、企業からが8.57%と続いています。会員制は、とっていません。

私のスーパバイザー(監督者)であるレスリー・ハーガート氏は、ハーバード大で博士号をとり、行政機関で仕事をし、大学で教鞭をとった後、現在のプロジェクトディレクターとなりました。祖父が司法長官、伯母がケネディ元大統領の秘書、自らもVISTA A(ケネディ元大統領がつくった連邦政府のボランティア推進機関)第1期生ということ、アカデミックな分野のみで活躍してい

るのみではなく、フィールドでも波をつくる大胆な世論形成をしながら、米国教育改革政策の普及に携わっています。

さて、私が研修から一番痛感したのは、現場のニーズを満たす活動の展開、或いは政策普及過程に、学術的正統性をいれこんでいく重要性です。インテリジェントな位置づけにある学術的正統性がないと、セクター間のコラボレーション(協働)が成立しません。また、学術的正統性がなければ、セクター間の政策の連携と大胆な展開は困難です。

市民社会にむけて、健康な民主主義を構築していくためには、有機的なボトムアップのうねりと、トップダウンの政策普及がきちんと連携し、正直な話し合いを可能とするセクター間のコラボレーションが、これからの日本の在り方に大きな影響を与えます。市民セクターの増強は、チャレンジです。とてもわくわくするチャレンジです。

"Let's make a difference!
Why not?"

「バリアフリートイレ基金」覚えていらっしゃいますか？おかげ様で、¥101,380頂きました！皆様、ご協力ありがとうございました。とも喜んではいけないのです。何故なら目標は¥1,000,000だからです……。急にぐらぐらになりましたが、まだまだ募集しておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

その工事に伴い事務所は若干狭くなりますので、今あるガラクタ(横田さんにとっては宝物らしい)を処分しなくては！と一人張り切っている次第です。整理整頓って大切ですよ、横田さん。

気持ちの良い日々を、皆さんはどのように過ごしていらっしゃいますか？

「i-commons創刊号」はいかがでしたか？3月22日の茨城新聞に掲載されてから、お電話での注文が4件ありました。ありがとうございます。ご意見・ご感想等ありましたら、どしどしお寄せ下さい。宜しくお願いします。

事務局は相変わらず忙しい日々を送っています。イベント等で事務所を空けてしまうことも多く、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしていることと思います。

以前「コモンズ通信」でご案内しました、

事務局

日誌

石川 雅子

